

OKI *Open up your dreams*

OKI高崎吹奏楽団 第15回定期演奏会

2012年11月4日（日）

高崎市文化会館 大ホール

13:00開場／13:30開演

主催：OKI高崎吹奏楽団

後援：沖電気工業株式会社
沖電気工業労働組合

ご挨拶

ご来場のみならず、本日はお休みにも関わらず、OKI高崎演奏楽団第15回定期演奏会へお越しいただきまして、誠にありがとうございます。また、日頃より群馬交響楽団の小田原先生をはじめ各交友団体のみなさまからの、ご協力に深く感謝申し上げます。

さて本日も披露させていただく楽曲は、バラエティに富んだ構成となっております。それぞれの曲に音楽の楽しさ、音楽のすばらしさ、音楽の魅力を、お一人おひとりのもに届けられるよう、一生懸命練習を重ねてまいりました。日常の慌しさから開放されて、心静かにこのひと時を楽しく過ごしていただきたいと思います。

最後になりましたが、OKI高崎演奏楽団として今後も演奏会を含め、さまざまな場面で活動を続けてまいりますが、本演奏会開催にあたりご支援ご協力いただいた関係者のみなさまに心より感謝申し上げますとともに、今後も変わらぬご指導ご鞭撻をお願いいたしまして挨拶とさせていただきます。

OKI UNION 北関東支部執行委員長 中沢 孝之

本日は、お忙しい中ご来場いただき、誠にありがとうございます。

演奏会を毎年継続して開催できるのも、こうして足をお運びいただける観客の皆様方のご支援の賜物と感謝申し上げます。また、小田原先生の長年に渡るご指導や、交友団体メンバーのご理解ご協力につきましても、改めて御礼申し上げます。

今回第15回という節目を迎えるにあたり、私共が愛する吹奏楽の魅力を是非観客の皆様にご紹介したいと考え、アルフレッド・リード氏の作品を特集いたしました。氏の作品は聞いて素晴らしいだけでなく、我々奏者にとっても演奏していて非常に心地良く、幅広い世代で愛される名曲揃いで、その名曲中の名曲を厳選しました。

第3部は、今年最大のイベント、ロンドンオリンピックとイギリスの特集です。争うのではなく力を尽くして競い合う選手たちの姿は、理屈抜きに感動を覚えますね。表彰式で他国の選手と肩を組む姿にも涙しました。昨年の震災のせいもあるかもしれませんが、個人的には過去最も印象に残った大会でした。私たちが今出来ることに力を尽くして明日へと繋げたいと思います。

精一杯の演奏を致しますので、どうぞごゆっくりお聞きください。この時間をお楽しみ頂ければ幸いです。

OKI高崎吹奏楽団 演奏会実行委員長(団長) 阿部 哲也

指揮者紹介



小田原 朝雄(おだわら ともお)

山形県新庄市出身。1975年に国立音楽大学音楽学部器楽科トロンボーン専攻卒業。卒業に際して武岡賞(器楽部門最高位)を受賞する。同年、群馬交響楽団へ入団。トロンボーンを佐藤菊夫、ジェローム・ノレー各氏に師事。群馬交響楽団トロンボーン奏者を37年間務め、2012年9月16日定年退団。

OKI高崎吹奏楽団や利根商業高校吹奏楽部の指揮者を務める傍ら、ラジオ高崎(76.2MHz)の音楽番組「おだわらともおの「くらしっく 寄り道 回り道」」では、長きにわたりパーソナリティを勤めている。

番組のゲストを通じてオカリナの心癒す素朴な音色に魅せられたことがきっかけで、練習を重ね、近年はオカリナ奏者として、野外コンサートやソロコンサートなどの活動も増えている。

ラジオ高崎「おだわらともおの「くらしっく 寄り道 回り道」」

毎週土曜日 AM10:00～10:55 (再放送：毎週日曜日 AM8:30～9:25)

第1部 アルフレッド・リード特集

20世紀の吹奏楽の巨匠、アルフレッド・リード(1921～2005)の作品から3曲をお贈りします。

音楽祭のプレリュード／A FESTIVAL PRELUDE

1957年に作曲、初演されてすぐに全米で高い人気となり、リードの最初に成功した曲と言われております。日本でも1970年の全日本吹奏楽コンクールの課題曲として選定されてから、一気にリード人気が高まりました。それもそのはず、何しろ曲がカッコイイ!のです。この曲が生まれた1950年代～1960年代は、吹奏楽がシンフォニックミュージックとしての新たな地位を確立しつつある時代で、この曲も新時代を予感させる1曲であったことは間違いないでしょう。次々と生み出されたリードの作品は、構成や音楽性、編成など多くの面で以降の吹奏楽に影響を与え、現代の吹奏楽の範となっています。短い曲ですが、吹奏楽の魅力である力強さ、華やかさ、優しさ、美しさなど様々な要素が凝縮されており、リード作品の原点とも言える曲だと思います。どうぞお楽しみください。

アルメニアン・ダンス パート1、パート2／ARMENIAN DANCES (PART1,PART2)

アルメニアの音楽家ゴミダス・ヴァタベッド(1869～1935)が収集したアルメニアの民謡を題材に、ゴミダス研究の権威で吹奏楽指導者でもあったアルメニア系アメリカ人ハリー・ベギアンが、1962年にリードに曲を委嘱し、約10年の歳月をかけて生み出された曲で、リードの代表的作品となっています。

パート1は1972年、パート2は1975年に完成されていますが、当初は一つの組曲とする構想であった様です。結果的に、第1楽章に相当するパート1を先に出版した事も成功の一因となり、特にパート1は、どこの楽団でも一度は演奏されているのではないかと思います。現在でも非常に高い人気を持つ名曲となりました。パート2は3つの楽章から成り、こちらも名曲であることは間違いないのですが、やはりパート1の続編という印象を受ける構成で、演奏される機会はパート1ほど多くは無く、パート1、パート2を合わせると大曲となる為、今回の様に同じステージで全曲が演奏される機会は更に少ないと思います。どうぞお楽しみください。

パート1:(第1楽章)

Tzirani Tzar (The Apricot Tree/杏の木)～Gakavi Yerk (Partridge's Song/ヤマウズラの歌)～
Hoy, Nazan Eem (Hoy, My Nazan/おーい、僕のナザン)～Alagyaz (Alagyaz/アラギヤズ山)～
Gna, Gna (Go, Go/行け、行け)

パート2:

第1楽章(第2楽章) Hov Arek 「風よ、吹け」(The Peasant's Plea/農民の訴え)
第2楽章(第3楽章) Khoomar 「クーマル」(女性の名前)(Wedding Dance/結婚の舞曲)
第3楽章(第4楽章) Lorva Horovel 「ロリ地方の農耕歌」(Songs from Lori/ロリの歌)

第2部 ジャズステージ「Dixie Queens On Stage!」

Dixie Queensは、OKIとOKIグループの有志関係者によって結成した企業内アマチュアjazzbandです。

秋山 学(Cl)、小澤さゆり(Kb.Cl)、小澤正仁(T.Sax)、小澤高仁(B.Sax)、阿部哲也(Tp)、毛利誠二(Tb)、加治雅也(Tb)、島野和博(Bj)、綿貫邦彦(Drums)

第3部 ロンドンオリmppick(イギリス)特集

ロンドンオリmppickメドレー(炎のランナー～風が吹いている)

今年の暑い夏を更に“熱く”したあの感動を再び!

TVでおそらく最も耳にした、題名を知らなくても聞けばすぐわかるあの曲2曲をメドレーでお贈りします。

007コレクション

イギリスの諜報部員、殺しのライセンスを持つ男…007シリーズは映画公開から今年50周年で、12月には23作目が公開されます。ジェームズ・ボンドのテーマと少し懐かしめの作品から4曲のメドレーでお贈りします。

ミュージック・オブ・ザ・ビートルズ

世界で最も成功したグループアーティストとしてギネス認定もされたイギリスのロックバンド。こちらも今年レコードデビューから50周年ですが、楽曲は今でもあちこちで耳にしますね。12曲をメドレーでお贈りします。

演奏者 (五十音順)

指揮:小田原 朝雄 団長:阿部 哲也

Flute

木暮 一夫
千木良 真由美
土屋 真由美
黛 彩

Oboe

小野 芳江
原澤 貴子

Clarinet

阿久津 博美
磯田 秀子
岩内 健一
小澤 さゆり
篠田 真由美
須田 かおり
富岡 千春
村田 文子

Clarinet & Bass clarinet

秋山 学

Alto saxophone

杉山 徹
山口 裕子

Tenor saxophone

小澤 正仁

Baritone saxophone

小澤 高仁

Trumpet

阿部 哲也
田子 雄一
谷口 博
林 美帆子
村山 富喜

Horn

秋庭 真紀
片貝 茂男
白石 健
土岡 和樹
土屋 孝之

Trombone

町田 一弘
町田 好宏
毛利 誠二
山本 武明

Euphonium

奥澤 智子
関口 義人

Tuba

内田 大成
宮崎 伸之

Percussion

伊藤 泰三
河野 賢一
鈴木 理絵
馬場 俊成
春山 伸一
星野 武徳
矢島 香寿代
綿貫 邦彦

印刷デザイン制作:武者祐司

2012年7月15日 高崎市吹奏楽祭にて

